



【校訓】 自立 不屈 進取

平成31年度

4月号

H31. 4. 26 発行

人のために何ができるか

校長 前田 浩二

今月、各地域の運動会に参加して、うれしいことがありました。中学生の多くが補助員として頑張っていたことです。地域のために活躍している姿は見ていて頼もしく感じました。

また、地域の方から次のような話を聞きました。

「ゴミ出しをしようとしていたら、ある男子中学生が『僕が持ちましようか。』と声をかけてくれました。とてもうれしかったので校長先生にお伝えします。」

早速、私はこの二つのことについて全校朝会で紹介して、人のために何かを行うことの大切さについて話をしました。

本校の1学期の合言葉は、「人のために何ができるか」です。生徒みんながこの気持ちを持ち続けて行動できたら、もっとすばらしい学校になることでしょう。係活動や生徒会活動では、一生懸命取り組むことが生徒みんなのためになります。毎日の掃除では、手を抜かずしっかり行うことによって、みんなが気持ちよく使える場所をつくりまします。家庭でも風呂掃除や食器洗いを行うことが、家族のためになり、頼られる存在になります。

部活動においても、常に仲間やチームのことを考えて行動していれば、プレーに表れます。特に競り合ったゲーム展開やピンチの時に、プレーヤーそれぞれに、自分がチームを助けるという闘志が湧き、積極的な好プレーが生まれるものです。強いチームとはこれができるチームだと思っています。

学級においても、困っている人や寂しい思いをしている人に声をかけ、相手の立場に立って優しい心遣いをするすることで、全員が楽しいと言える温かい学級をつくることができます。

さらに、人のために行動することが、「自己有用感」も高めます。「自己有用感」とは、人の役に立った、人から感謝された、人から認められたということを実感することにより、自分自身を肯定的に捉えることです。つまり、自分に自信をもつことができるのです。

この1学期、「人のために何ができるか」を常に考え行動に移し、みんなが充実した楽しい立神中学校をつくっていきたいと思います。

転入職員等紹介

職名	氏名	前任地等

第26回入学式、新年度スタート

四半世紀の歴史を刻み、26年目を歩み始めた立神中学校に35人の新入生が入学しました。中学校での生活や学習において、戸惑ったり失敗したりすることもあると思いますが、それは自分の成長のチャンスです。アドバイスや指導をしっかりと受け止め、考え、行動していくことで、視野も広がり毎日が充実することでしょう。これは、2・3年生にもあてはまることです。26年目の立神中学校。令和元年度ももうすぐ迎えます。共に一歩一歩進んでいきましょう。



新入生入場完了



新入生代表あいさつ

立神中いじめ問題を考える週間

4月15日から19日は、「いじめ問題を考える週間」でした。19日は、各学級の道徳の時間にいじめ問題をテーマにみんなで学習を深めました。「もしもいじめが自分の身に起こったら誰かが支えてくれるのだろうか」「いじめは犯罪と同じだと思った」「しっかり仲間を増やして解決できるようにしたい」など、活発に意見が出ていました。



考え議論する道徳

平成30年度鹿児島学習定着度調査

— 1月実施 1・2年生対象 —

通過率	国語	社会	数学	理科	英語	
中	立神中	58.9	70.4	70.1	71.5	68.2
1	県	61.9	62.2	59.7	59.2	73.3
中	立神中	65.7	58.6	68.9	61.7	52.1
2	県	67.6	51.2	60.8	50.3	51.7

県平均を下回った教科はもちろん、全教科において分析を行い、指導方法改善に取り組んでいます。また、生徒の学習に関する意識や学び方についても実態を把握し指導に生かしています。

立神の如く

<自分を客観視する頃>

校長 前田浩二

中学生ぐらいになると、自分自身のことや自分を取り巻く環境について客観的に見るようになり、様々なことに気付き始めるのではないかと思います。

私が中学2年生の時のことである。ある日、同級生を家に連れてきたことがあった。その同級生とはそれまであまり接点はなかったが、大きくて立派な家に住んでいるということは知っていた。何かのきっかけで、そんな彼を我が家に連れてくることになったのだが、彼は私の家を見るなり驚いたような表情になり、ひとこと、「ここが前田の家？」と言った。最初は何に驚いているのか分からなかったが、ほどなく彼の家が大きくて立派だったことを思い出し、目の前の私の家が彼の家とあまりに違うことに驚いているのだと悟った。それから急に自分の家がみすぼらしく見え、恥ずかしくなった。古い借家で、お世辞にもきれいな家ではなかったが、小学校2年生から住んでいて家の状態など意識したことはなかった。しかし、このことがきっかけで、自分がみすぼらしい家に住み、世間的に見て経済的に厳しい家庭であることを実感した。それは14歳の自分にとってとてもショックなことだった。このことについて人に話をするとはなかったが、心が不安定になったことは40年経った今も覚えている。

自分を客観視することは、冷静な判断を行ったり、自分の力の伸びを実感したりする上でとても大切なことであり、生きていく上でも必要なことである。一方で、他人と比べることにより、劣等感や不安感を募らせることもある。特に多感な中学生ぐらいの頃には、大人であればあまり気にならないような小さなことでも、不安に感じることも多いことだろう。だから、心の不安定な生徒と出会った時には、自分自身のことや自分を取り巻く環境について客観的に見始めているのではと思いをめぐらすことにしている。

では、どのように接していけばいいのだろうか。そのヒントが、枕崎市教育委員会が配布している『平成31年度まくらざき家庭教育手帳』にあった。2ページ目に次のように書いてある。

思春期になると、男女とも心身が急速に成長し始めます。子供たちの不安や戸惑いなどが和らぐよう、心身の変化について話してあげることが大切です。親子で何でも話せる仲でありたいものです。

学校でも、生徒と個別に話をする機会をたくさんつくっていききたい。不安や戸惑いを少しでも解消できたらと思う。

【5月主な行事予定】

- 7日(火) 3年実力テスト(～8日)
- PTA総会
- 8日(水) スケッチ大会
- 9日(木) 不審者対応訓練
- 11日(土) 生徒総会
- 13日(月) 2年修学旅行(～15日)
- 3年かつお節工場体験
- 14日(火) 3年職場体験学習(～16日)
- 20日(月) 1年鹿児島水産高校体験学習
- 21日(火) 1年芋植え
- 22日(水) 1・2年耳鼻科検診

- 23日(木) 地区中体連陸上競技大会
- 24日(金) 朝の声かけ(3～1)
- 25(土)

～26日(日) 都道府県対抗なぎなた大会

〔かごしま国体リハーサル大会〕

開会式の役員ボランティアとして、11人の生徒が参加します。

- 26日(日) PTA愛校作業
- 27日(月) 学級弁論大会
- 28日(火)・29日(水) 1年教育相談(～6月)
- 29日(水) 歯科検診 30日(木) 眼科検診